

シベリアに眠る

自民党総務会副会長
名誉顧問 藤井基之



十五世紀以前のヨーロッパの人々の世界観は、プトレマイオスの地図に記されたものと同様変わらないものでした。この地図は、二世紀のプトレマイオスの著書『地理学』を基にして作成されたもので、世界の西の果ては青い海として、東の果ては白い陸として描かれています。

実際、世界の東の果てにはロシアがあり、そのロシアの東の端にウラル山脈がありました。

ウラル山脈を越えた向こう側は、世界の外側、人外の地とみなされ、その白い陸地がどうなっているのか、どこまで続いているのかは誰も知りませんでした。

時は流れ、十六世紀のある法令がきっかけとなって様相に変化が生じます。その法令とは、毛皮の制限令です。

ヨーロッパにおいては、毛皮は単なる防寒具ではなく、階級社会の地位をあらわすものとみなされ、とりわけ毛皮の最高峰に位置するクロテンの毛皮は財宝のように扱われていました。そのような社会認識であったがゆえに、

イギリス国王のヘンリー八世は、自らの身を一層尊貴なものとし、さらなる羨望を集めるべく、毛皮制限令を設けました。王侯貴族以外の者がクロテンの毛皮を着用することを禁じようとする法令です。この毛皮制限令が大きな変化を世界にもたらすことになりました。

王侯貴族のみがクロテンの毛皮をまとうことができるということは、すなわち国家がクロテンの毛皮の価値を保証し、高貴なものとして認めたことになるからです。

その結果、クロテンの毛皮が頂点に位置し、テン、イタチ、カワウソ、キツネの毛皮がこれに次ぐ、といった毛皮の価値の序列が定まることとなりました。

そうなると思っても高位の毛皮で着飾りたいと思うのが人情というものです。ヨーロッパで空前の毛皮ブームが巻き起こり、人々は少しでも高い階級の毛皮を得ようとしました。

毛皮の値段はみるみる上がり、需要は増大する一方です。高い階級の毛皮は宝石のごとき価値となり、毛皮の一大マーケットが出現しま

した。

そして大きな富の移動をもたらしました。世界の辺境、ロシアに莫大なお金が流れ込み始めたのです。より正確に言えば、ロシア国ではなく、ロシアの毛皮会社です。広大な森林をもつロシアは、テンなどの野生動物の宝庫であり、毛皮ならいくらでも獲ることができました。

毛皮獣が大量に狩られ、その毛皮は莫大な量の金貨と引き替えにヨーロッパに引き渡されました。ロシアはヨーロッパに毛皮を供給し続けましたが、それでも毛皮の需要に十分に応えることができませんでした。

そのうち困ったことになりました。ロシアの毛皮獣が激減してしまい、毛皮の供給が滞ってしまふようになったのです。どこかに毛皮獣はいないものかと思案したところ、毛皮会社はロシアの東の果て、すなわち世界の外側に白い陸地が広がっていることを思い出しました。

そこでさっそくウラル山脈を越え、世界の外側、シベリアの大地に踏み出しました。

木々の間を無数の毛皮獣たちが跳びはねており、そこはまさに毛皮獣たちの楽園でした。いくら獲ってもその数は減らず、湧き続けるがごとくたくさん毛皮獣が生息していました。

ロシアの毛皮会社は大喜びでしたが、あることに気づきました。世界の外側である筈のシベリアにも人が住んでいたのです。

当たり前のことですが、自分の庭先で勝手に狩りをされて気持ちが良いわけはありません。あちこちで先住民たちとトラブルになり、そうした問題を解決すべく、毛皮会社は私設の軍隊を創設しました。

毛皮会社は、話し合いができない相手には、銃剣で決着をつけることにしたのです。

私設軍隊の侵攻は凄まじく、シベリアの大地は次々に毛皮会社の所有地となっ

ていきました。

もっとも毛皮会社の関心は毛皮獣のみであり、土地そのものには興味はありません。毛皮会社が手に入れた大地はそっくりロシア皇帝に献上されました。

そしてわずか六十年の間に、シベリアはすっかりロシアの版図に収められてしまいました。

膨大な数の人員がシベリアに投入され、彼らの採皮活動を支えるべく、生活物資が犬ぞりに載せられて東へ東へと運ばれていきました。そして、彼らの採取した毛皮が犬ぞりに載せられて西へ西へと輸送されました。

このようにシベリアは、毛皮の巨大な供給基地として整備されていくことになりました。

しかし、つい最近まで人外の地であったところ。隅々にまでロシア人が入

り込むようになると、別の大きな問題が生じました。

そう、あの天然痘です。ロシア人とともに天然痘ウイルスが持ち込まれてしまったのです。

天然痘は、何ら免疫をもたない先住民に容赦なく襲いかかり、大量の死者を生み出しました。住民が絶滅してしまつた集落も珍しくありませんでした。

天然痘はシベリア中で流行を繰り返して、何十万、何百万もの人命を奪っていきま

した。一説によるとツングース人の八割以上が命を落としたともいわれています。

彼らの遺体はあまりにも多く、シベリアの永久凍土の地中深くに葬られました。

今でも、冷たい氷の中で永遠に眠りに

ふじい もとゆき 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 3回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師

政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿健康社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

活動報告

参院議員厚生労働委員会理事等として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟副会長
社団法人日本薬剤師会常務理事
- 平成13年 参議院議員(1期目)
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)
- 平成22年 参議院議員(2期目)
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会委員長
- 平成24年 自由民主党広報本部副部長
広報本部新聞出版局長
- 平成25年 自由民主党党紀委員会委員
裁判官弾劾裁判所裁判員
- 平成26年 原子力問題特別委員会委員長
文部科学副大臣
- 平成27年 自民党政務調査会副会長
参議院政策審議会筆頭副会長
参議院厚生労働委員会委員
- 平成28年 参院沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長
参議院厚生労働委員会委員
国土審議会
離党振興対策分科会特別委員
参議院議員(3期目)
自民党総務会副会長